

認知症映画上映会

写真撮影、録画、録音は
禁止とさせていただきます。

アルツハイマー病を患った母を
98歳になった父が懸命に介護する日々。
そんな中、新型コロナの波が押し寄せて
事態は急変する。



監督・撮影・語り
& ひとり娘
信友直子



ぼけますから、
よろしく願いします。
～おかえりお母さん～

令和8年 8月1日 土

入場無料

時間：開場／13:00 開演／14:00(上映時間101分)

会場：宗像ユリックス ハーモニーホール
(〒811-3437 福岡県宗像市久原400 TEL:0940-37-1311)

申込：一般の方／参加申込不要
事業所等の方／裏面をご覧ください

(所属機関毎に参加人数を
お知らせください)

主催・お問い合わせ先

医療法人光風会 宗像病院 福岡県認知症医療センター

〒811-3414 福岡県宗像市光岡130番地 TEL:0940-36-2775 FAX:0940-37-0692

人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。



信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)



ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願いします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願いします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——

令和8年度 福岡県認知症医療センター研修会

参加申込書 申込期限 7月30日(木)

FAX: 0940-37-0692

※下記項目をご記入の上、上記FAX番号にてお申し込み下さい。

一般の方
参加申込
不要

事業所名		参加人数	名
TEL		FAX	

医療法人光風会 宗像病院 福岡県認知症医療センター 宛て